

令和元年 愛知県医師会交響楽団 定期演奏会反省会 議事録

日 時：令和元年 11 月 9 日(土) 18:30-19:30

場 所：愛知県医師会館 6 階研修室

出席者：36 名

第 38 回定期演奏会について

入場者数 1,145 名

当日券 プレイガイドにて 77 枚（過去最高記録）

入口にて 52 枚

技術委員長より

- ・ 和田先生よりメッセージ読み上げ

本番の集中力が素晴らしかった。演奏のレベルアップのためには自身の耳が最大の武器となる。指揮に合わせるだけではなく周りの旋律や同じ役割のパートを感じながらバランスをとることが重要。

- ・ 技術委員長の感想

PP を追求できたこと、静寂を楽しむという点は特に今までと違うレベルアップができたことと感じている。

- ・ 耳を働かせること、さらに脳を働かせることがアンサンブルに重要である。

団員より、指揮者・ソリスト・今回の練習についての意見

- ・ 指揮者からいただいたメッセージでは褒めておられるが、本心からの賛辞であるかどうかはわからない。指摘されている内容は毎年同じだということは反省すべき点では。
- ・ 本番の指揮者が来る前に仕上げるべきことがもっとある。
アンサンブルを整えることは本番指揮者にさせることではない。
セクション内、部門内での意見交換を活発にしたらどうか。
- ・ 指摘をするタイミングや声掛けの方法について検討すると良い？
他のパートには声をかけにくい部分もある。
- ・ 今回は勢いがつく時期が遅かった。
- ・ 緊張感が足りない。一人一人がもう少しずつオケの音楽を構成している意識を持つべき。
- ・ 個人の意識改革とある程度のまとまりでの自助努力が必要。
- ・ 自由にディスカッションする場が必要か？
- ・ 本番前になるとトップ合わせ等の急な練習が組まれることが困っている。今回は時期的に無理があったが、予備日などは年間計画して早めに組むようにして欲しい。
- ・ お金を払って聴いてもらうという意識での演奏を。
- ・ 管楽器はソロがあれば個人練習をととてもやっている。弦楽器は少し違うかもしれないが、

医師会オケとしてのアマチュアとしての良さを出せれば。しかしエキストラが数回しか練習に来ない場合には疑問を感じる。

- ・ 今回の指揮者は団にどのような表現をしたいかを問われた。これは初めてだったと思われる。アナリーゼが重要と思われた。
- ・ その回毎の演奏会を自身がどう捉えてどう向かっていくか、個々に考えることが必要。
- ・ 現在は長い歴史の変遷の中間地点である。
- ・ 気持ちに頼るのではなくシステムとしても改革することが重要。練習後を復習の時間に当てるのはどうか。→過去に実施したこともありうまくいかなかったが、今後も検討。練習後の復習は一部だけで、次回の練習前もしくは練習の間に振り返るのはどうか。
- ・ 練習時に楽譜にメモを書くことは大事。書いても忘れるので頻繁に書く作業が要る。
- ・ 隣の人のおかしな部分を指摘するのを躊躇しないことが重要。
- ・ 降り番の人が第三者として指摘することも有効では。
- ・ 人間的に尊敬しながら音楽的におかしいと思ったことを伝える技術を心得ると良い。
- ・ 曲について。ピアニストの得意な曲ではなかったのでは。3曲のバランスが悪い。選曲についてプロの意見をいただいてはどうか。
- ・ 弦楽器は前を見てボウイングや弾き方を揃える技術を。練習前に声をかける？
- ・ 「まずはパートから。まずは隣人から。」
- ・ 弦トップ列のアクションが足りない。後ろや管楽器に対するアピールも足りない。

アンケート

回収 210 枚（過去最高数） 記名のあったもの 136 枚

- ・ 毎回来ていただいている固定ファンもいるらしい。
- ・ チラシが多すぎるという意見があった。
- ・ 豊明市での開催要望。
- ・ 芸文での開催を望まれる声は多い。

DVD

- ・ DVD を注文したまま退団・休団した方に配送する時に困っている
→ パートリーダーにも協力していただき対処する。困ったら運営委員へ相談を。

チャリティー先代表者からいただいた感想 読み上げ

- ・ 生でオーケストラを聴くという醍醐味について述べられていた。

企画委員長より

色々あるが一定の感動を提供できていることも事実ではある様子。自信も持ちつつ反省点を踏まえて今後も頑張っていきたい。

（文責：門野泉）